

参加費  
無料  
(事前申込制)

同済大学・  
立命館孔子学院  
合同セミナー  
2017



## 中国経済成長モデル の転換と日本

中国経済の現状とその転換期における  
日本への影響、今後の展望について、  
日中の有識者に解説および議論してい  
たきます。

パネリスト(基調講演順):

諸 大建 氏

(同済大学経済・管理学院教授)

森脇 祥太 氏

(大阪市立大学大学院経済学研究科教授)

熊 偉 氏

(同済大学経済・管理学院助理教授)

中川 涼司 氏

(立命館大学国際関係学部教授)

シンポジウムファシリテーター:

陳 晋 氏(立命館大学経営学部教授)

—その行方と日本への影響—

# 中国 転換 経期 経済の

### アクセスマップ



11月18日(土)

AP大阪駅前梅田1丁目

APホール

13:00-17:00

(12:30~受付開始)

主催:同済大学、立命館孔子学院大阪学堂  
後援:中華人民共和国駐大阪総領事館教育室  
協力:大阪市、立命館大学

お申込・お問合せ先:立命館孔子学院 | TEL:075-465-8426 / HP:<http://www.ritsumeai.ac.jp/confucius/>

現在、中国経済は成長モデルの転換期に入っている。直面している諸問題に対し、今後、どのように解決・対応していくのか、また、短期、中・長期的に大阪をはじめ、関西、ひいては日本の経済に与える影響について、基調講演及びパネルディスカッションを通して、検討していく。

基調講演・パネリスト

# 1 中国の「グリーン発展」戦略

同時通訳

報告書によると2030年は中国のグリーン転向及びデカップリング発展の鍵となる年といわれている。グリーン発展には三つの大きな転換が含まれており、そのうちの一つのシェアリング・エコノミーでは、中国のグリーン消費に対する意義と現実性が強調されている。



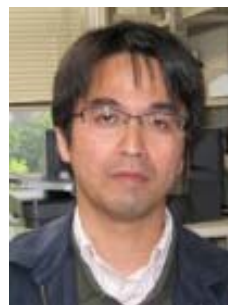
諸大建  
ZHU Dajian

同済大学  
経済・管理学院 教授  
研究テーマ：循環経済と持続可能な発展、都市と地域における発展、公共サービスと政策、最先端技術と管理など

# 2 中国経済はルイスの転換点を越えたか？ —東アジア諸国との比較—

日本語

開発経済学においては「ルイスの転換点」という概念があり、ある国が「ルイスの転換点」を越えた場合、労働市場が発展途上国型から先進国型へと転換することを示している。ある国が「ルイスの転換点」を越えた場合、その国の労働市場は特に農村部で人手不足となり、人件費が上昇することになる。2000年代以降、中国では、特に沿岸部において製造業の人件費が上昇するような現象が観察されており、「ルイスの転換点」を越えたか否かが注目されている。東アジア地域においては日本、台湾、韓国が既に「ルイスの転換点」を越えており、それら諸国と2000年代以降の中国を比較することによって、中国経済が転換点を越えたか否かを明らかにする。



森脇 祥太  
Shota MORIWAKI

大阪市立大学大学院  
経済学研究科 教授  
研究テーマ：発展途上国の経済発展を対象とした実証分析、開発経済学、経済発展論など

# 3 持続可能な発展を目標とする官民パートナーシップモデル ～中国の現状研究報告より～

同時通訳

中国政府は2014年より、民間事業者が都市のインフラ整備や公共サービスの提供に参入することを世界的に呼びかけるため、政府と民間企業との協力モデル「官民パートナーシップ (Public Private Partnerships, PPP)」を推進している。PPPモデルは地方政府の財政圧力を軽減し、公共サービスの提供率を向上させてきた。近年は持続可能な発展のための重要な手法であると認識されている。しかし、民間企業の利益優先という考え方から、PPPモデルが持続可能な発展へ貢献できるか、という論争も浮上している。本講演では、中国のPPP専門家に対してQ分類法で行ったインタビュー、アンケート調査結果を報告したい。



熊偉  
XIONG Wei

同済大学  
経済・管理学院 助理教授  
研究テーマ：官民パートナーシップ (PPP)、都市化と都市整備、持続可能な発展、等

# 4 中国における国際金融のトリレンマとバブル再燃

日本語

国際金融の分野では「通貨の安定」と「独立した金融政策」「自由な資本移動」の3つの要件を同時に満たすことはできないという「国際金融のトリレンマ」が知られている。国際金融のトリレンマに対する中国の従来の方針は、金融政策の独立性を保ちながら、自由な資本移動に漸進的に移行し、人民元相場の変動幅を拡大し市場化を進める方向であった。しかし、現在、資本移動は規制が強化され、人民元の国際化は明らかに後退した。こうした人民元相場を安定させ、金融政策の独立性を保とうとしている。しかし、その結果起こったのがバブルである。これらの状況について概観するとともに今後の展望を行う。



中川 涼司  
Ryoji NAKAGAWA

立命館大学  
国際関係学部 教授  
研究テーマ：東北アジアの地域経済協力、中国のIT産業、中国多国籍企業

シンポジウムファシリテーター



陳晋  
CHEN Jin

立命館大学経営学部教授

略歴：

文化大革命時代、都市（天津市）から内モンゴルの農村に下放される。文革後、会社勤務を経て、大学に進学、卒業後大学の教員となる。沖縄大学人文学部教授（2001年）、米国のオックスフォード大学客員研究員（2007年）、立命館大学国際部副部長・BKIC国際教育センター長（2011年）、立命館孔子学院運営委員。

お申込方法

- ①HPからのお申し込み  
当学院HP内「文化イベント講座受講申込フォーム」よりお申込ください。  
<http://www.ritsumei.ac.jp/confucius/>
- ②お電話でのお申し込み TEL: 075-465-8426

お問合せ・お申込先

立命館孔子学院事務局 国際平和ミュージアム2階  
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1  
立命館大学 アカデメイア立命21  
TEL: 075-465-8426 FAX: 075-465-8429  
E-MAIL: [koza@st.ritsumei.ac.jp](mailto:koza@st.ritsumei.ac.jp)

